


【道路橋支承便覧 平成30年12月】バージョン管理表(新様式)

情報管理 No.	種類	正誤表 No.	ページ	箇所or行	誤	正(今回修正後)	備考	摘要	紙図書反映状況		
1	正誤表	1	P59	表-2.6.1 方法1	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、これを 影響 的に評価した断面とすることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、これを 定量的 に評価した断面とすることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	「影響」→「定量」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
2	正誤表	2	P59	表-2.6.1 方法2	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、当該部材等には影響を及ぼさない対策の追加等の別途の手段を付加的に講じることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の経年の変化を前提とし、当該部材等 の断面 には影響を及ぼさない対策の追加等の別途の手段を付加的に講じることで、その期間内における当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	当該部材等「の断面」追加	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
3	正誤表	3	P59	表-2.6.1 方法3	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等の 経年の変化 が現れる可能性がないか、無視できるほど小さいものとする こと で、当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	設計耐久期間内における材料の機械的性質や力学的特性等 に及ぼす経年の影響 が現れる可能性がないか、無視できるほど小さいものとする こと で、当該部材等の耐荷性能に影響を及ぼさないようにする方法	「の経年の変化」→「に及ぼす経年の影響」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
4	正誤表	4	P143	10行目	iii)式(4.5.3)に定める積層ゴムのせん断ひずみが、～	iii)式(4.5.4)に定める積層ゴムのせん断ひずみが、～	式(4.5.5)→式(4.5.4)	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
5	正誤表	5	P203	4行目～	これは、桁との取付にあたって強度上のバランスを考慮し、いたずらに強度差が大きい材料を使用することは望ましくないため、それぞれ、その引張応力度及びせん断応力度の制限値を強度区分4.6及び10.9相当に抑えることとして抵抗係数により調整することとしている。	これは、 ボルト径により流通するボルトの区分が分かれる等の理由によるものであり、これまでの実績を踏まえたものである。	誤の部分を削除理由の記述が誤っていたため修正	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
6	正誤表	6	P261	15行目～	50万回ごとの正負交番載荷 6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値 に対して、せん断剛性又は等価剛性は、 それぞれ の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	50万回ごとの 鉛直荷重繰返し載荷4回 のせん断剛性又は等価剛性の変化率が 初期値に対して ±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	「正負交番載荷6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値に対して、せん断剛性又は等価剛性は、それぞれの変化率が」→「鉛直荷重繰返し載荷4回のせん断剛性又は等価剛性の変化率が初期値に対して」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
7	正誤表	7	P261	20行目～	また、パッド型ゴム支承については、鉛直荷重繰返し載荷前 及び 鉛直荷重の繰返し載荷回数が、50万回目、100万回目、150万回目、200万回目(鉛直荷重繰返し載荷後)に達したときに、それぞれの 圧縮変位量 の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	また、パッド型ゴム支承については、鉛直荷重繰返し載荷前 に対して 、鉛直荷重の繰返し載荷回数が、50万回目、100万回目、150万回目、200万回目(鉛直荷重繰返し載荷後)に達したときに、それぞれの せん断剛性 の変化率が±10%以内であれば圧縮作用に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	・「及び」→「に対して、」 ・「圧縮変位量」→「せん断剛性」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
8	正誤表	8	P263	12行目～	1000回ごとの正負交番載荷 6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値 に対して、せん断剛性又は等価剛性は、 それぞれ の変化率が±10%以内であれば 圧縮作用 に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	1000回ごとの正負交番載荷 6回 のせん断剛性又は等価剛性の変化率が 初期値に対して ±10%以内であれば 水平変位 に対する疲労耐久性を有すると考えられる。	・「6回のうち1回目を除く2～6回目の平均値に対して、せん断剛性又は等価剛性は、それぞれの変化率が」→「5回のせん断剛性又は等価剛性の変化率が初期値に対して」 ・「圧縮作用」→「水平変位」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
9	正誤表	9	P302	1行目～	なお、無収縮モルタルの所要の品質は表-3.7.1に示すとおりであり、この品質が確保されていることを確認する。	なお、無収縮モルタルの所要の品質は 3.8 に示すとおりであり、この品質が確保されていることを確認する。	参照先の違いを修正	2020.4.6掲載	第3刷で訂正済み		
10	正誤表	10	P309(3)	1行目～	箱抜き施工精度は表-6.3.1を満足するよう 管理して施工する必要がある が、アンカーボルト孔～	箱抜き施工精度の 例を参考資料-18に示しており、参考にすることができる が、アンカーボルト孔～	表-6.3.1は存在しないので文章を修正	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み		
11	正誤表	11	表-参3.1		$E_1 = E_2 = E, \quad \nu_1 = \nu_2 = 0.3$	表の列を示すタイトルが空欄	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み			
12	正誤表	12							$P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} \left(\frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^2 \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$	$P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} \left(\frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^2 \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$	$\pi_3 \rightarrow \pi^3$ (下付き→上付きに)
13	正誤表	13							$a = \frac{1.107}{E} \left\{ \frac{P}{r_1 r_2} \right\}^{1/3}$	$a = 1.109 \left\{ \frac{P}{E r_1 \pm r_2} \right\}^{1/3}$	1.107→1.109

【道路橋支承便覧 平成30年12月】バージョン管理表(新様式)

情報管理 No.	種類	正誤表 No.	ページ	箇所or行	誤	正(今回修正後)	備考	摘要	紙図書 反映状況
14	正誤表	14	P371	表-参3.1		$E_1 = E_2 = E, \quad \nu_1 = \nu_2 = 0.3$	表の列を示すタイトルが空欄	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
15	正誤表	15			$P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} r^2 \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$	$P = \frac{\pi^3 p_0^3}{6} r^2 \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right)^2$	$\pi_0 \rightarrow \pi^3$ (下付き→上付きに)		
16	正誤表	16			$a^3 = \frac{3}{4} \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right) P$	$a^3 = \frac{3}{4} r \left(\frac{1-\nu_1^2}{E_1} + \frac{1-\nu_2^2}{E_2} \right) P$	()前の「r」抜け		
17	正誤表	17			$b = 1.52 \left(\frac{D}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^{1/2}$	$b = 1.52 \left(\frac{q}{E} \frac{r_1 r_2}{r_1 \pm r_2} \right)^{1/2}$	p → q		
18	正誤表	18	P394	3行目～	表-7.5.5の特性値を用いること <u>と</u> できる <u>を</u> 考えられる。	表-7.5.5の特性値を用いること <u>が</u> できる <u>と</u> 考えられる。		2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
19	正誤表	19	P559	7.荷重-変位履歴の右側	限界状態2(1回目)	限界状態2(2回目)	左右とも1回目となっているため、右側を2回目に修正	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
20	正誤表	20	P560	7.荷重-変位履歴の右側	限界状態2(1回目)	限界状態2(2回目)	左右とも1回目となっているため、右側を2回目に修正	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
21	正誤表	21	P570	3.繰り返し回数-圧縮変位量の変化	3.繰り返し回数- <u>圧縮変位量</u> の変化	3.繰り返し回数- <u>せん断剛性</u> の変化	・「圧縮変位量」→「せん断剛性」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
22	正誤表	22	P570	表中の右上4.計測値	<u>圧縮変位量</u>	<u>せん断剛性</u>	・「圧縮変位量」→「せん断剛性」	2019.7.24掲載	第3刷で訂正済み
23	正誤表	23	P538	様式-1(1)ゴム配合・混練・圧延	本体ゴム ②ゴムの圧延 1)物理的性質試験の結果が管理値 <u>位内</u> 2)圧延シートの厚さが管理値 <u>位内</u> 被覆ゴム ②ゴムの圧延 1)物理的性質試験の結果が管理値 <u>位内</u> 2)圧延シートの厚さが管理値 <u>位内</u>	本体ゴム ②ゴムの圧延 1)物理的性質試験の結果が管理値 <u>以内</u> 2)圧延シートの厚さが管理値 <u>以内</u> 被覆ゴム ②ゴムの圧延 1)物理的性質試験の結果が管理値 <u>以内</u> 2)圧延シートの厚さが管理値 <u>以内</u>	・「管理値位内」→「管理値以内」	2023.9.12掲載	第3刷で訂正済み
24	正誤表	24	P108	4行目	単純桁橋の場合には、式(4.2.10)の支間中央のたわみを	単純桁橋の場合には、式(4.2.9)の支間中央のたわみを	・式の参照先を修正	2025.9.18掲載	第4刷で訂正済み